



参加
無料
(事前申込制)

第124回中国理解講座
現代中国語シリーズ②

対照言語学からみる 意味拡張・意味変化 の方向性

10:00~11:30

立命館孔子学院講義室 (国際平和ミュージアム2階)

9/16
(土)

講師：夏海燕氏 (神奈川大学外国語学部・特任助教)

講演概要：言語表現を見ていくと、面白い現象が観察される。我々はお茶も要求も「飲み」、飯もパンチも「食い」、飴も辛酸も「舐める」ことができる。また日本語の「みる」は視覚動詞として使われる時、「テレビをみる」「景色をみる」のように特定の価値判断とは結び付かず、意味的に中立的であるが、意味拡張に伴い、〈ある出来事を経験する〉という意味で使用される時は、「憂き目・痛い目・ひどい目・辛い目をみる」や「ばか・泣き・恥をみる」のように、ほとんどが被害性を帯びている。これはいわゆる意味の「墮落的傾向 (pejoration)」にあたる言語現象だろうか、なぜこのような変化が生じたのか、と不思議で仕方なかった。日本語や中国語などの多言語データに基づき、対照言語学の立場から、このような意味拡張、意味変化に見られる非恣意的な一方向性を検証する。

お申込み・お問合せ先：立命館孔子学院 (立命館大学 国際平和ミュージアム2階)

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 立命館大学 アカデミア立命21内

TEL : 075-465-8426 FAX : 075-465-8429 Mail : koza@st.ritsumeai.ac.jp <http://www.ritsumeai.ac.jp/confucius/>

